

スーパーマーケット景気動向調査

2023年10月調査結果（9月実績）
（2023年10月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

10月調査（9月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は3か月連続で50を上回る

9月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-1.7の50.2と小幅に悪化したものの、3か月連続で判断の分かれ目である50を上回った。見通し判断は前月から+0.7の46.2となり、ほぼ前月水準となった。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に前月に比べ小幅に下落した。引き続き生鮮品仕入原価DIと食品仕入原価DIが過去最高水準で推移し、販売価格DIが高止まりしている状況が続くが、客単価DIが-6.0の14.0と下落したことが影響している。来客数DIはほぼ前月並みの水準を維持した。

カテゴリー動向調査では、青果・水産DIは二桁プラス圏まで上昇したものの、畜産DIはマイナス圏に下落した。猛暑等による調理敬遠、イベント需要拡大などが追い風となっている惣菜DIと、猛暑が続き涼味商材が好調の日配DIは引き続き好調を維持している。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査では、現状判断DIで全般的に小幅な悪化を示したが、景気判断DIが50を上回る水準で推移するなど堅調な推移が続いている。（長期傾向についてはP11参照）

一般食品については、値上げによる単価上昇と買上点数減少のせめぎ合いが続くなかで、9月は厳しい残暑が続き、涼味商材の需要拡大の恩恵を受け、好調な動向となった。一方で生鮮食品については、気象条件や円安、国際情勢の変化により相場が不安定で、難しい販売環境が続いている。10月に入り秋らしい気候となり、生鮮品を中心とした調理需要の回復に向けた各社の取り組みが期待される。国産水産物の消費拡大に向けた気運も高まっており、スーパーマーケットも年末に向け協調を図りたいところだ。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：50.2 (-1.7) 前月：51.9	消費者購買意欲DI 当月：48.7 (-1.2) 前月：49.9	周辺地域 競合状況DI 当月：47.8 (+1.7) 前月：46.1	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：49.8 (-0.5) 前月：50.3
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：46.2 (+0.7) 前月：45.5	消費者購買意欲DI 当月：46.5 (+0.4) 前月：46.1	周辺地域 競合状況DI 当月：45.3 (+0.5) 前月：44.8	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：48.3 (-0.1) 前月：48.4
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：9.9 (-3.9) 前月：13.8	客単価DI 当月：14.1 (-6.0) 前月：20.1	来客数DI 当月：-3.2 (+0.6) 前月：-3.8	
収益DI 当月：7.0 (-3.0) 前月：10.0	販売価格DI 当月：26.0 (0.0) 前月：26.0	生鮮品仕入原価DI 当月：22.7 (+1.9) 前月：20.8	食品仕入原価DI 当月：24.7 (+0.4) 前月：24.3

カテゴリー動向

青果DI 当月：12.2 (+5.6) 前月：6.6	水産DI 当月：12.1 (+4.2) 前月：7.9	畜産DI 当月：-5.9 (-6.7) 前月：0.8	
惣菜DI 当月：20.9 (+2.9) 前月：18.0	日配DI 当月：19.4 (+0.4) 前月：19.0	一般食品DI 当月：4.4 (-7.9) 前月：12.3	非食品DI 当月：-6.2 (-4.3) 前月：-1.9

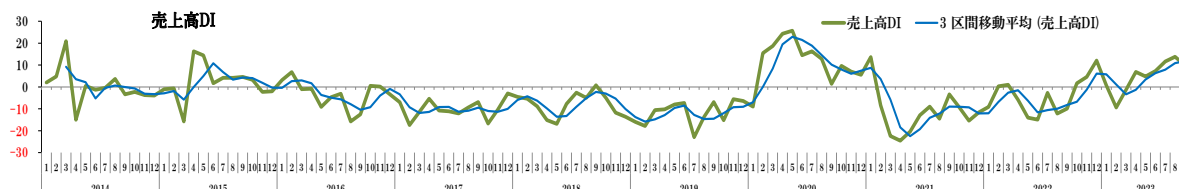
※DI値は前年同月との比較 / ()内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

当月小幅に下落し、プラス幅を縮小

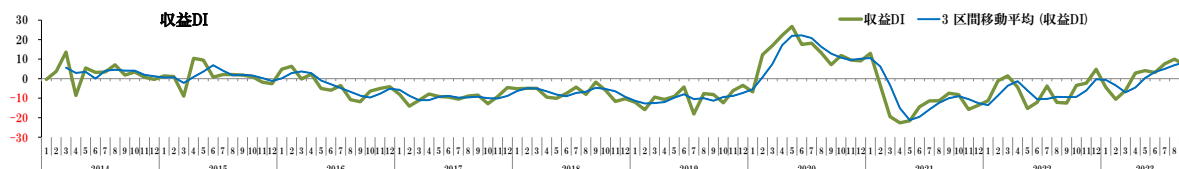
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	4.3	10.3	24.3	48.1	13.0	13.8
売上高 (当月)	4.0	17.4	21.5	49.0	8.1	9.9



2. 収益DI

当月下旬し、プラス幅を縮小

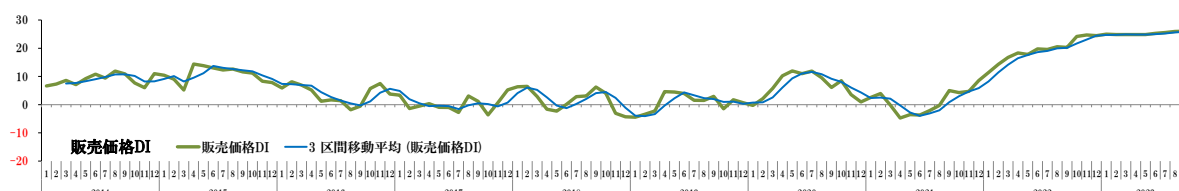
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	4.4	14.3	31.9	35.7	13.7	10.0
収益 (当月)	2.1	22.6	32.9	30.1	12.3	7.0



3. 販売価格DI

前月から横ばい、引き続き最高値付近で推移

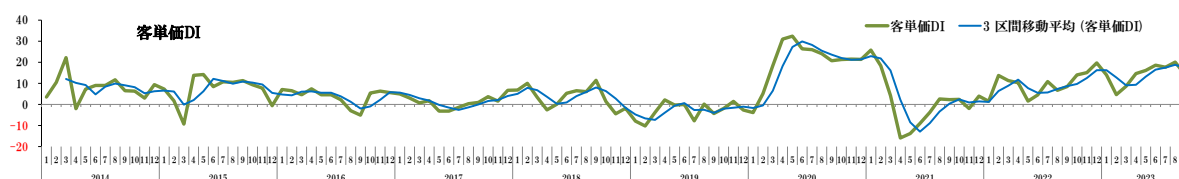
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	0.5	12.0	70.5	16.9	26.0
販売価格 (当月)	0.0	2.0	8.2	73.5	16.3	26.0



4. 客単価DI

前月から下落、プラス幅を縮小

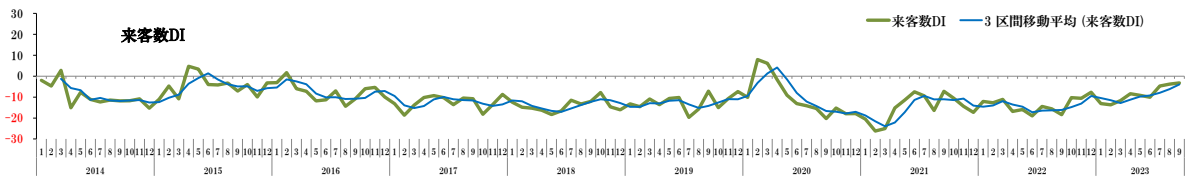
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.5	3.8	18.5	69.0	8.2	20.1
客単価 (当月)	2.0	6.0	29.5	58.4	4.0	14.1



5. 来客数 DI

前月から横ばい、小幅なマイナス

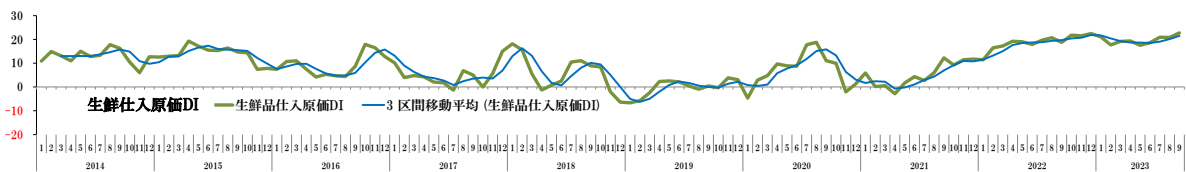
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	7.0	33.5	29.7	27.0	2.7	-3.8
来客数 (当月)	6.1	29.7	37.8	23.6	2.7	-3.2



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から小幅に増加、二桁プラス水準で推移

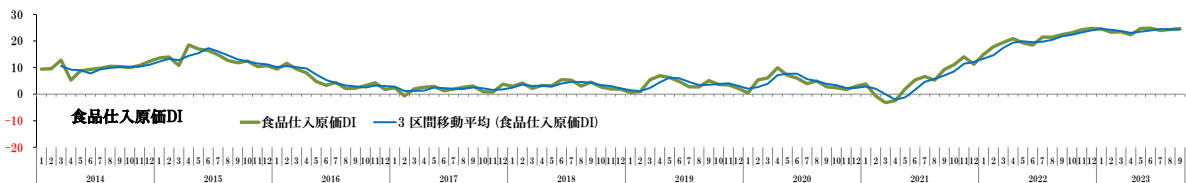
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.7	3.4	16.2	67.6	11.2	20.8
生鮮仕入原価 (当月)	0.7	2.8	13.9	70.1	12.5	22.7



7. 食品仕入原価 DI

前月から横ばいも、29か月連続プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.7	1.1	15.7	61.2	20.2	24.3
食品仕入原価 (当月)	0.0	2.1	11.8	71.5	14.6	24.7

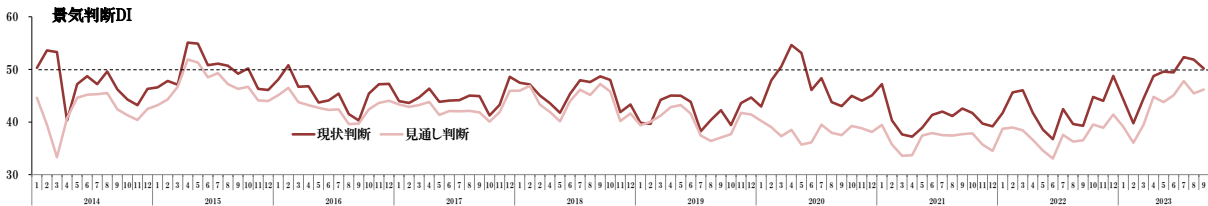


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は小幅に悪化も、3か月連続で50超え

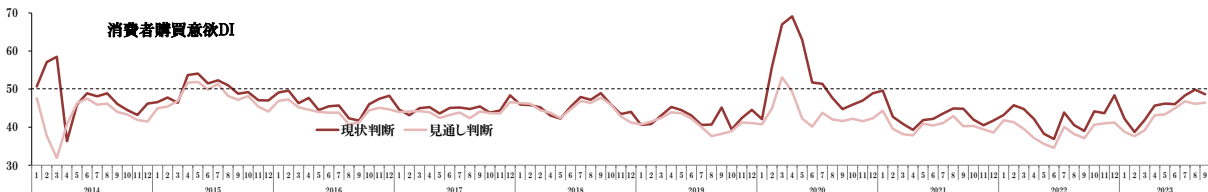
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	1.6	13.3	61.7	22.9	0.5	51.9
【現状】景気判断 (当月)	2.0	14.0	65.3	18.7	0.0	50.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	2.1	26.2	59.4	12.3	0.0	45.5
【見通し】景気判断 (当月)	2.0	24.7	60.0	13.3	0.0	46.2



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は小幅に悪化、見通し判断は前月水準

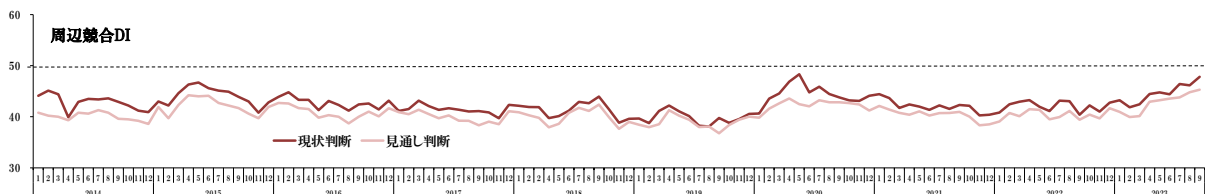
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.1	17.0	63.8	17.6	0.5	49.9
【現状】購買意欲 (当月)	0.7	19.5	64.4	15.4	0.0	48.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.6	24.6	61.5	12.3	0.0	46.1
【見通し】購買意欲 (当月)	0.7	25.7	60.8	12.8	0.0	46.5



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は小幅に改善、見通し判断は前月水準

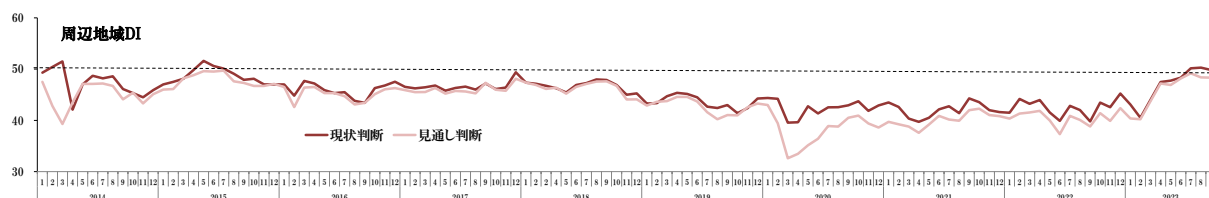
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.1	16.0	77.7	3.7	0.5	46.1
【現状】競合状況 (当月)	1.3	13.4	77.9	7.4	0.0	47.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	2.7	20.3	72.7	3.7	0.5	44.8
【見通し】競合状況 (当月)	2.0	20.8	71.1	6.0	0.0	45.3



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に前月と変わらず

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.1	8.6	79.1	10.7	0.5	50.3
【現状】地域景気 (当月)	0.7	11.3	76.0	12.0	0.0	49.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.1	13.0	77.8	7.6	0.5	48.4
【見通し】地域景気 (当月)	0.7	16.1	72.5	10.7	0.0	48.3

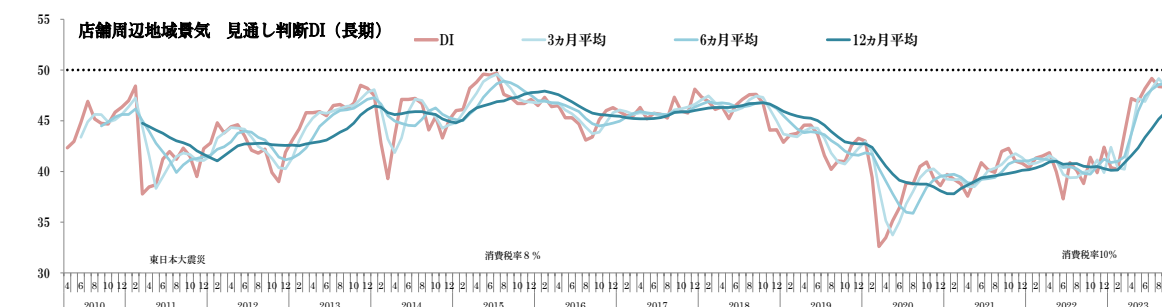
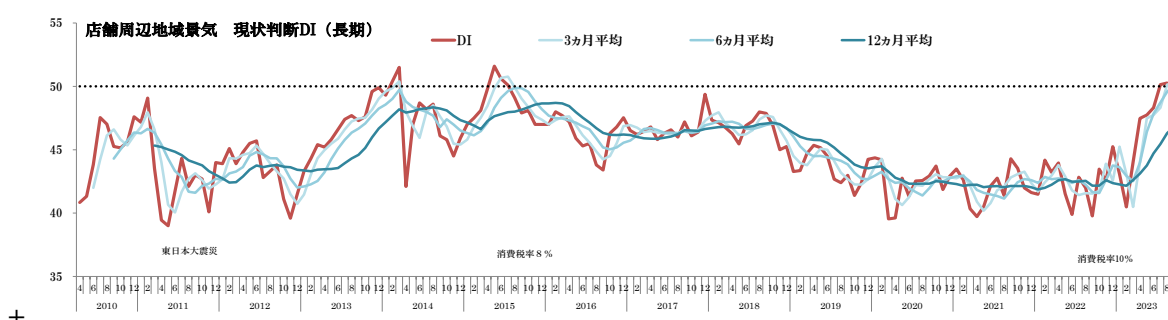


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

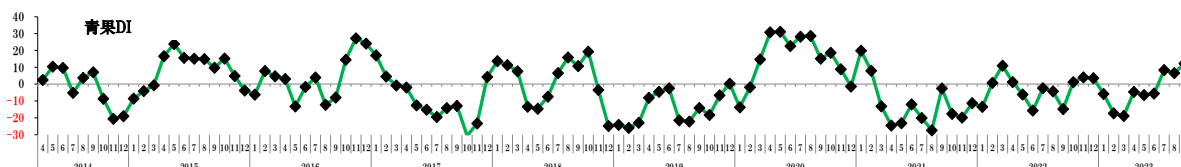
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した。感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：12.2（好調）

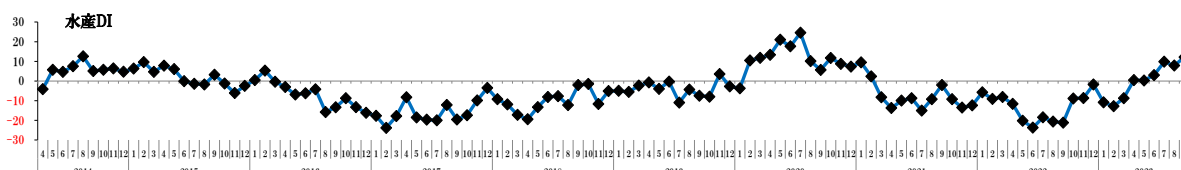
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	5.6	20.8	24.7	39.3	9.6	6.6
青果（当月）	3.5	14.0	25.2	44.8	12.6	12.2



高温の影響で相場高傾向となり単価上昇を牽引したが、品質低下や不安定な入荷状況の影響を受けた店舗もみられた。厳しい残暑が続いたことで、トマトやキュウリなどサラダ関連は好調に推移したが、レタスやほうれん草などの葉物類は品質低下で苦戦した店舗もみられた。ナスやピーマンなど炒め物関連野菜の動きがよかった一方で、鍋物関連野菜は動きが鈍かった。国産果実ではシャインマスカットが豊作で好調、カットフルーツも引き続き動きがよい。輸入果実では低価格のバナナが好調となった。

2. 水産DI：12.1（好調）

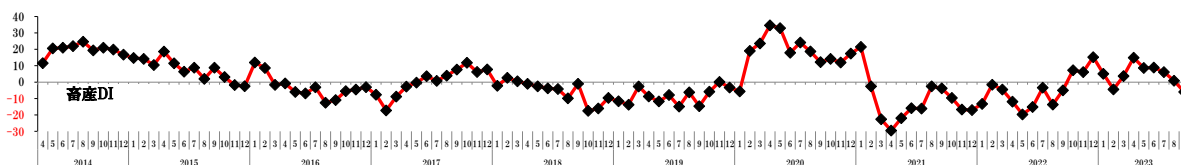
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	5.6	19.1	26.4	36.0	12.9	7.9
水産（当月）	2.8	17.6	23.9	39.4	16.2	12.1



相場の低下や入荷が安定した魚種がみられ、カテゴリーは回復傾向。マグロやタコ、カツオなどの刺身類は相場が安定し好調。残暑で輸入品を中心にウナギも動きがよい。水揚量が多いアジ、入荷が始まったサンマも前年に比べ回復傾向がみられた。塩干類は魚卵を中心に好調。冷凍品ではイカ類は価格が高止まりしているが、エビ類は動きがよかった。貝類は消費拡大気運の高まるホタテを中心に好調。秋鮭は入荷が不安定で、好不調の判断が分かれた。養殖のブリやアトランティックサーモンを拡販し好調、とのコメントも寄せられている。

3. 畜産DI：-5.9（やや不調）

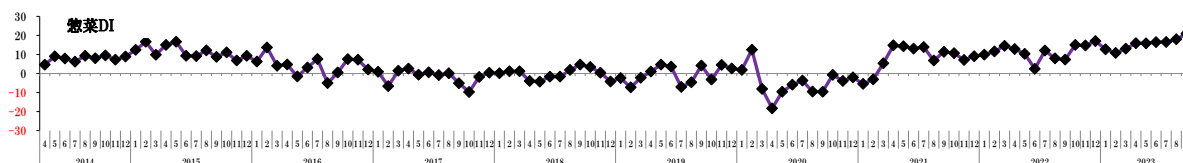
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	7.3	26.3	28.5	31.8	6.1	0.8
畜産（当月）	10.5	35.7	24.5	25.9	3.5	-5.9



精肉全般で相場高傾向のなか、牛肉から豚肉・鶏肉に需要がシフトする傾向が続き、カテゴリーとしてはやや不調となった。牛肉はハレの日や週末で好調だが、その他は苦戦した店舗が多い。豚肉は国産が高騰しており、輸入豚を中心に小間切れや挽肉など普段使いの商品を中心に動きがよい。最も相場の安定している鶏肉だが、値ごろなムネ肉が好調となった。ハムやソーセージなどの加工肉は値上げの影響で不振が続いている。

4. 惣菜DI：20.9（かなり好調）

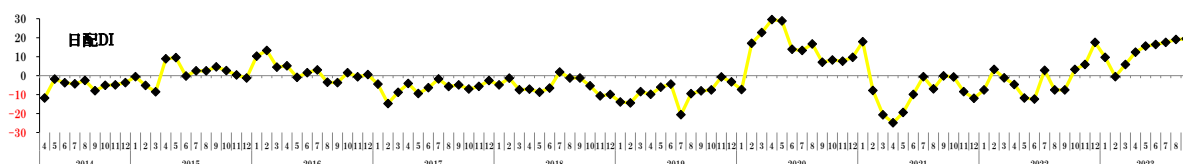
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	2.8	7.3	24.2	46.6	19.1	18.0
惣菜（当月）	2.1	5.7	20.6	49.6	22.0	20.9



気温が高く、サラダ関連や冷やし麺類などの涼味、焼鳥などのつまみ類の動きがよかった。家庭での電気・ガス代高騰や残暑による調理敬遠を追い風に、天ぷらや唐揚げ、コロッケなど揚げ物は好調を持続。昼食・夕食需要の回復も続いており、米飯類の動きがよい。予約注文の増加により、オードブルや寿司類が好調な店舗がみられた。海外からの宿泊客などインバウンド需要の拡大を指摘するコメントもみられた。

5. 日配DI：19.4（好調）

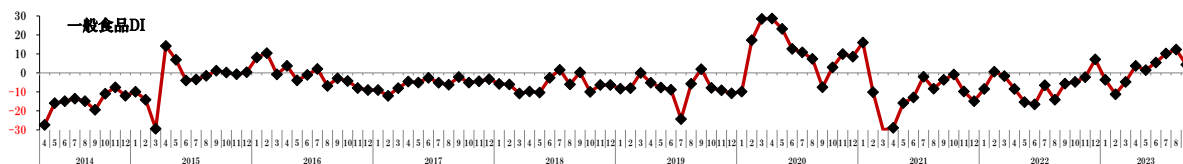
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	1.1	10.0	22.2	45.0	21.7	19.0
日配（当月）	1.4	7.7	25.9	42.0	23.1	19.4



値上げの影響が大きいカテゴリーとなっているが、一般的に買上点数の減少は小さく、一品単価上昇により、販売額は引き続き好調に推移している。月を通じて残暑が続き、チルド麺など涼味食材、飲料やアイスが安定的に好調となった。鶏卵は、価格が高止まりしつつ商品供給が回復し売上増となった。価格改定のあったパンや冷凍食品は調理敬遠傾向を追い風に好調を持続。再値上げの牛乳など乳製品、納豆や豆腐など、食生活に欠かせないベーシックな商品群は点数減が小幅で、売上が伸長した店舗が多い。

6. 一般食品：4.4（やや好調）

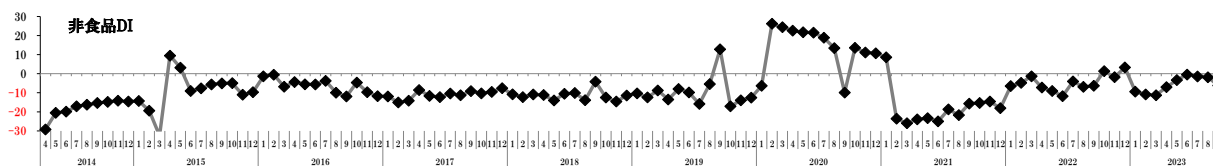
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	3.4	15.6	23.5	43.6	14.0	12.3
一般食品（当月）	4.2	25.2	27.3	35.7	7.7	4.4



一般的に販売価格上昇による買上点数の抑制傾向がみられるものの、厳しい残暑で飲料、そうめんなどの乾麺類、パスタソースなどレトルト食品が好調となった。菓子類はチョコレート類の動きは鈍いが、値上げで単価が上昇しており、好調な売上となった。食用油や調味料類も調理敬遠傾向の影響を受け、動きが鈍かった。新米類は高温障害による品質の低下がみられ相場高傾向も、販売数量に回復傾向がみられる。酒類は10月の酒税改定を前に、新ジャンルビールの駆け込み需要がみられた。

7. 非食品 DI：-6.2（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	8.6	32.6	26.9	21.7	10.3	-1.9
非食品（当月）	13.1	28.5	32.1	22.6	3.6	-6.2



長引く残暑により、日焼け止め、殺虫剤や虫ケア用品など季節商品も好調を継続している。マスクやハンドソープ、除菌関連など衛生用品は需要減少が続き不振だが、単価が上昇しているペットフード、トイレtpーパー・キッチンペーパーなど紙製品は好調に推移に推移した。前年の在宅支援物資の反動減や、ホームセンターやドラッグストアとの競合の厳しさを指摘するコメントがみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2023年10月調査（9月実績）キーワード TOP3

1. 残暑による涼味商材、惣菜好調
2. 調理敬遠傾向
3. 生鮮品相場変化の影響

（参考）2022年10月調査（9月実績）キーワード TOP3

1. 内食需要の低下
2. 値上げの影響
3. 気温が高い

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

9月実績速報版 150社
 8月実績確報版 188社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp